

生涯学習センターの動向

高頭 麻子

生涯学習センターは、在学生・卒業生・一般市民の方々を対象に、学内外の生涯学習活動の連携を図りつつ推進することを目的として、公開講座事業・リカレント教育事業・相談事業・施設提供を行っている。下に主要な2つの事業について記述する。

<生涯学習センター公開講座>

目白キャンパスでの今年度開設・開講講座数は90、総受講者数2,379名、総延人数35,722名、西生田キャンパスでは、開設講座数81、うち開講75講座、総受講者数1,591名、総延人数16,668名であった。

受講料無料の特別講演会としては、前期(5月)に、さわやか福祉財団理事長の堀田力氏「地域に自分を生かす」、後期(11月)に劇作家・演出家・大阪大学教授の平田オリザ氏「わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か?」を開催し、いずれも大変好評であった。西生田キャンパスでは、地域性を生かして「西生田キッズレンジャー」、「ゆたかな子育てを語り合おう」など、近隣親子向け講座や、気象予報士の斉田季実治氏の「いのちを守る気象情報」を受講料無料で地域に提供した。

キャリア支援講座では、「消費生活アドバイザー試験対策講座(家政経済学科共催)」 「総合・国内旅行業務取扱管理者対策講座(文学部共催)」など、学部学科共催の講座にも力を入れている。授業の空き時間を活用し年間100レッスンを受ける「毎日学ぶ課外英会話」は385名が受講し今年も好評を得た。また、「文京アカデミア講座」4講座の開講、川崎市民への前期3講座、後期3講座の無料提供のほか、一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会や婦人国際平和自由連盟日本支部(WILPF)など学園関係機関との連携講座を開講し、学内外の連携を深めている。

<リカレント教育課程>

2013年度の年間の入学者52名と入学者数は増加し、2013年度修了者30名のうち25名が就職を希望し、23名が就職(非常勤を含む)した。今年度在学した受講生のうち再就職を希望する者の進路は以下のとおりである(内定を含む)。

	修了者	再就職 希望者	正規社員	非正規社員		進学
				フルタイム	パート	
第10回生	1	0				
第11回生	7	5	0	2	3	1
第12回生	22	20	4	10	4	0
合計	30	25	4	12	7	1

2012年度から始めた入学・就職説明会を今年も前期5回、後期9回開催した。詳しい説明と個別のキャリア相談を行っているので、誤った期待や誤解に基づく入学がなくなり、ほとんどの受講生が説明会を経て入学するようになっている。

通常の授業のほかに、2013年度はRIWAC（現代女性キャリア研究所）共催の春期特別講座として、2014年2月から3月にかけて、「ロジカルシンキング」、「アサーティブ・コミュニケーション」、「起業準備」など6講座を開き、大変好評であった。

8月と3月の本課程独自の合同会社説明会や、恒例となった10月の修了生懇話会のほか、毎年幾つかの再就職支援イベントを開いており、2013年度6月には、6週連続でACCJ（在日米国商工会議所）共催の特別セミナーを開き、各界でご活躍の女性たち（Vicki Beyer氏（Morgan Stanley MUFG Securities Co. Ltd.）、Susan Beer氏とLouise Gardestad氏（スウェーデン大使館）、井口加奈子氏（弁護士）、中園真理子氏（東京エグザクティブ・リサーチKK）、福井真紀子氏（KKハーモニー・レジデンス）、宮崎百合子氏（KKクレネ））にお話しいただいた。

12月には内閣府、男女共同参画推進連携会議・婦人国際平和自由連盟（WILPF）日本支部主催、日本女性法律家協会・文京区共催のシンポジウム「再チャレンジを目指す女性のための『学びなおし教育』」が、文京シビックセンターで開かれ、リカレント修了生1名と、修了生の雇用企業社長が、パネラーとして参加した。

女性の潜在能力の活用が問われている現在、本課程への注目は大きく、2013年度も、読売新聞（9月）、産経新聞社（10月）、十勝毎日新聞（11月）、日本経済新聞（6月、12月、2月）、日経DUAL（12月、1月）等メディアの取材を受けた。また、文科省生涯学習政策局や内閣府内閣官房副長官室などから、本課程の調査・視察のための来訪があった。

2011年度に始めた科目担当講師の懇談会に、今年度はリカレント教育委員会メンバーも出席して、より効果的・有機的なカリキュラム編成のための活発な議論が交わされた。

今後も、①新卒者にはない働く自覚と自信を備えた即戦力を養うためのカリキュラム、②在校生・修了生一人一人へのきめ細かな就職支援、③講師・在校生・修了生・課程スタッフ・理解ある企業や日米の商工会議所・本課程を応援してくれる諸機関とのネット・ワーキング、という3つの回路を通して、女性の潜在能力を開花させ、充実したキャリア生活を実現させたい、と考えている。

2013年度にはまた、2013年3月に閉所した札幌・福岡サテライトの記念誌『日本女子大学地域サテライトの歩み』を刊行し、10年以上に亘りサテライトの運営を支えてくださった卒業生の皆さんへの感謝の会をそれぞれ9月に開き、佐藤学長理事長より各運営委員会に感謝状が手渡された。両サテライトの皆さんは、場所を替えて自主ゼミを続けられており、卒業生と大学との交流や生涯学習への熱意は今後も発展することが期待する。

最後に悲しい報告であるが、センター副所長で、西生田のテニス講座などを精力的に開講してくださっていた馬場哲雄先生が、2013年5月21日に急逝された。心よりご冥福をお祈りする。なお、教育学科の田中雅文先生が急きょ、年度末まで副所長の任をお引き受けくださった。

(たかとう まこ 文学部史学科教授・生涯学習センター所長)